



長工校長通信

TEAM長工2026

スローガン「長工生よ、地域を潤す源流となれ！」



第14号

山形県立長井工業高等学校

2026年9月30日発行

創立64周年記念式典 式辞

本校は、地域産業を支える技術者の育成を目的として、1962年（昭和37年）に創立されました。これまで、社会や産業の変化に対応しながら、9,800名を超える素晴らしい卒業生を送り出してまいりました。

創立当初は、校舎や資材、施設・設備も十分とは言えず、決して恵まれた学習環境ではありませんでした。しかしながら、地域、地元企業、関係機関の皆様のご支援のもと、当時の生徒・教職員は、その困難をものともせず、創意工夫を重ね、日々の学びに真摯に取り組んでいたと聞いております。本校が所在する長井市をはじめ、この西置賜地区は古くから製造業が盛んであり、本校卒業生もその中核を担い、地域の産業発展に大きく寄与してまいりました。

本校の歩みを振り返りますと、創立翌年に校章が制定されました。この校章の図案は、長井市名誉市民であり、日本を代表する彫刻家である長沼孝三氏によるものです。工業の「工」と高校の「高」に、力強い「矢印」が組み合わされたその型は、理科系にふさわしく理知的で堅実な気風を表し、突き進む矢印は、本校及び本校生の前進と進歩、発展を意味しています。さらに翌年には、現在の校歌が制定されました。作詞は白鷹町出身で高校の校長を務められた芳賀秀次郎氏、作曲は現在の天童市出身で音楽教育者であり、吹奏楽の指導に尽力された海鋒義美氏です。この、今も私たちが歌い継ぐ校歌の二番には、「つねに雄々しく 勤労の精神（こころ）磨かむ」とあり、三番には「心ひとつに真実の道をあゆまむ」と高らかに謳われています。校章が示す「理知的で堅実な前進」と、校歌が示す「精神を磨き、真実の道を歩む」という魂。これらは、本校の教育目標である「人間性・創造性・社会性の育成」にそのまま通じるものであり、時代が変わろうとも決して変わらない、私たちの根本をなす大切な魂であります。

その後、幾多の変遷を経て、2001年（平成13年）より現在の校舎へと移転し、これにあわせて、スローガン「長工生よ、地域を潤す源流となれ！」が掲げられました。本校での学校生活が、地域に潤いをもたらす「源流」を生み出し、卒業後の活躍が大きな「本流」となって地域社会を支え、そして、「還流」となり本校の教育活動の充実につながり、次の世代にも継承される。私たちは、このような理想の循環を目指し、今も地域とともに歩む教育活動を続けております。

ここで、生徒の皆さんに強く伝えたいことがあります。皆さんは、これからの時代を切り拓いていく主役です。データサイエンスやAIをはじめとするテクノロジー、そしてDXが急速に進展する時代において求められているのは、時代の変化に順応するだけでなく、他者や社会に思いを寄せるimaginationの「想像力」、そして自ら課題を見つけ新たな価値を生み出すcreationの「創造力」です。本校で「ものづくり」を学ぶ皆さんは、社会を物理的に形作る大きな力を身につけています。しかし、技術や知識を一度身につけたらそれで終わりではありません。「自分の生きたいように生きる」ためには、生涯にわたって「学び続けること」、そのための「学び方そのものを身につけること」が大切です。そして、さらに心に留めておいてほしいのは「他者との関わり」です。どんなに優れたアイデアや技術も、自分一人で完結しては社会を動かすことはできません。周囲と協働し、自分の考えを言葉にして届ける「言語化力」が必要です。これからの学校生活、地域とのつながりの中で、磨いてください。そして、これらの力を、誰かを幸せにし、地域や社会を潤す「源流」となるために生かしていきましょう。皆さんには、無限の可能性があります。これからの努力と挑戦次第で、思い描く未来はいくらでも実現可能です。校章の矢印を胸に、自信と誇りを持って、共に前へ進んでいきましょう。光あれ、われらが母校！ We are Team 長工！

結びに、本校が今日まで発展してこられたのは、地域の皆様、企業・団体の皆様、そして保護者の皆様の温かいご支援とご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。これからも、時代の変化に柔軟に対応しながら、「人間性」、「創造性」、「社会性」を兼ね備えた、次の時代を担う工業人、社会に貢献できる人の育成に、地域及び関係機関と連携し、教職員一丸となって力を尽くしてまいります。今後とも変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



「長井工業高等学校公式Instagram」を是非ご覧ください。